

めでいかすとる
Médicastre



「 烏 城 」

鶴岡地区医療学術懇話会抄録

期 日：平成 24 年 5 月 23 日 (水)
場 所：東京第一ホテル鶴岡

『 一般医家における COPD の診断と治療 』

医療法人社団松柏会至誠堂総合病院
院長 高橋 敬治 先生

気管支喘息における死亡者は 15 年前の 25% 以下まで減少しています。一方慢性閉塞性肺疾患 (COPD) による死亡者数は徐々に増加し、平成 22 年度の厚生労働省人口統計によれば年間 16,000 人に及び、糖尿病による死亡数 14,422 人を上まわっています。日本の潜在患者数は 530 万人以上で、90% 以上が未診断といわれています。肺のガス交換機能は予備能力が大きく、組織破壊が進んでも呼吸困難などの自覚症状が出にくく医療機関の受診遅れが要因です。COPD の発症原因は 95% 以上喫煙によるものですが、症状が出現するまでには 20 年以上を有するといわれています。COPD は罹病期間が長く、日常生活への影響も大で、患者さんの約 70% は何らかの日常生活の制約を受けています。COPD の日本の年間総医療費は 8,055 億円と推計され、増悪に関わる医療費が全体の 40~50% を占めています。早期診断による増悪の予防が極めて重要です。

早期診断上、40 歳以上で喫煙歴のあるものでは常に疑う必要があります。加えて慢性の咳、

痰があるものではその疑いが強まります。診断上最も感度が良いのはスパイログラムの測定であり、早期診断には必須です。

治療はまず禁煙であり、早期の禁煙は肺の機能を回復させます。薬物療法の主体は吸入療法であり、初期には短時間作用型 $\beta 2$ 刺激薬 (SABA) を、中等症以上には長時間作用型 $\beta 2$ 刺激薬 (LABA) または超時間作用型抗コリン薬 (LAMA) を使用または併用し、増悪を繰り返す例には LABA と吸入ステロイド薬の合剤 (アドエア 250) を使用します。これらの適切な使用により増悪を予防します。治療効果の判定には、COPD アセスメントテスト (CAT) により行います。極めてシンプルな 8 項目の質問項目からなり、患者さん自身に記入していただきます。患者の健康状態を点数化でき、医師と患者とのコミュニケーションを容易にし、適切な治療管理が可能になります。全身併存症としての骨粗しょう症、うつ病、また肺合併症としての肺炎、肺癌などにも留意が必要です。

庄内南部地域連携パス推進協議会主催学術講演会抄録

期 日：平成 24 年 5 月 11 日(金)
場 所：医師会 3 階講堂

『村山地区大腿骨頸部骨折研究会 (維持期連携の会)の発足』

済生会山形済生病院

統括診療部長 石井政次先生

以前は転院の際、まず転院先の病院に家族が紹介状とレントゲンを持参し受診してもらい、担当医が受諾すれば入院予約を取ります。そしてベッドが空くまで待機していました。それが現在10病院の関係する村山地区大腿骨頸部骨折地域連携パスの成立後はオートマティックに術後14日で連携病院に転院するシステムが出来上がりました。途切れのない(シームレス)連携が平成19年よりこの村山地区にスタートしました。つまり手術が得意な急性期病院よりリハビリが得意な連携病院への連携の病病連携は概ね出来上がりました。今後は、このパスが本当に村山地区に深く根ざした日本でも模範となるようなパスを目指し、維持期つまり退院後自宅や施設に戻った後の反対側の骨折、ひいては村山地区の大腿骨頸部骨折の発生頻度を下げることが最終アウトカムによいよこの維持期に介入しました。一旦大腿骨頸部骨折を起こすと反対側の骨折を起こすリスクは一般に比べ男性は9倍、女性は6倍と増加します。また退院後1年以内に5.6%の患者さんが反対側を骨折し、そして反対側の骨折を起こす患者さんは、初回骨折から2年以内が75%という報告があります。一方大腿骨頸部骨折のエビデンスのある予防には、1：ヒッププロテクター、2：骨粗鬆症の

薬物療法、3：運動療法、4：住宅環境改善(バリアーフリー)があります。これらを退院後展開していくためにはかかりつけ医、ケアマネージャー、行政、各部門・施設関係者の協力なくしてはできません。維持期介入に当たり、保健所を訪問し保健所長に依頼、山形市医師会へ出向き協力をお願いに行きました。そして平成23年9月3日行政、かかりつけ医、コメディカル、施設関係者総勢130名が一同に会し、村山地区大腿骨頸部骨折研究会(維持期連携の会)の発足会が盛大に行われました。その後在宅ケア研究会、山形市ケアマネージャー研究会においても講演会を行い協力、啓蒙を行いました。しかし問題はかかりつけ医の登録です。登録は急性期病院が取りまとめ社会保険事務局に申告しなければなりません、地域連携パスではすべての病院と連携登録が必要です。これを事務局が取りまとめることとしました。しかし、複数かかりつけ医がいる場合どの医院にお願いするか、経過報告の内容、どの程度協力していただけるかまだまだ問題が山積しております。啓蒙しながら会を進めていく方針でスタートしましたがこれからが肝心です。頑張っていきたいと思えます。

第96回定時総会・観桜会

期 日：平成 24 年 6 月 1 日(金)
場 所：ベルナール鶴岡

例年になく桜の開花が待ち遠しかった春も過ぎ、いつの間にか木々の緑が眩しい初夏の装いとなった 6 月 1 日、第 96 回定時総会・観桜会がベルナール鶴岡で行われました。

定時総会は、23 年度お亡くなりになった田宮長二先生、高橋良士先生、戸田聖一先生の 3 名の先生方に黙祷を捧げ、議事は、議長の三浦二三男先生の進行で始められ、平成 23 年度会務報告・決算が無事承認されました。

観桜会は場所を移して行われ、担当理事である小野俊孝先生の進行で始まり、最初に鶴岡地区医師会新会長になられた三原一郎先生から、自由に忌憚のない意見を言える医師会にしていきたいという御挨拶がありました。続いて来賓である酒田地区医師会長の本間清和先生から、庄内地区の看護職員需要に関するアンケート調査について報告がありました。私もアンケートに回答した立場としてとても興味を持って聞かせていただきました。回答した会員の先生方、病院、施設全体で 30～40% 看護師が不足しているという結果が出、その原因の一つに、看護専門学校の不足が挙げられていました。「ぜひ庄内に看護師の養成所を作るために協力して頑張りましょう」という力強いお言葉を頂きました。次に議長である三浦二三男先生の乾杯の音頭で歓談に入り、美味しい料理に舌づつみを打ちながら和やかに懇談し、楽しい一夜を過ごすことができました。最後に副会長である土田兼史先生の閉会の乾杯で、まだ余韻が残るなか幕を閉じました。

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院
看護部長 佐藤 恵美

※定時総会議事録は 7 月号へ掲載いたします。



准看護学院 2 年生研修旅行

期 日：平成 24 年 5 月 15 日(火)～17 日(休)

学生生活の中で思い出多き研修旅行。今年も国立多磨全生園・ハンセン病資料館を見学。湯島天神で合格祈願!! 都内周遊し車窓からのスカイツリーも格別でした。以下は学生の感想です。

清和 直美

多磨全生園の見学の際、「近年は見学に来る方が少なくなっている」とお話がありましたが、私はもっと多くの人に知ってほしいと思いました。恐ろしい伝染病であると考えられ不平等な扱いを受け、何十年も苦しんでいる方々がいること。差別や隔離が国を中心に行われてきたこと。私が生まれた後に裁判の判決がで、「もののけ姫」「千と千尋の神隠し」など、まだまだ、最近の出来事のようにです。私が看護師となる上でハンセン病により人権を訴え続けた人々がいることを知っておくべきだと思いました。

クラスの皆が時間を合わせ集まることは、学校以外では初めてのことであり、つつい夜更かしをしてしまうこともありました。

毎日、忙しい時間を過ごす中で皆のいろいろな話を聞くことができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。皆の団結が強まった今、これからの実習を乗り切っていけるよう頑張っていきたいと思います。旅行委員の方々、お疲れ様でした。



旅行委員 阿部 有里

ハンセン病患者の隔離政策から始まり療養所での生活や療養所内で行われたこと、差別や偏見、プロミンの登場まで丁寧に教えていただきました。印象的だったのが重監房を再現したものでした。想像以上に窓が小さくほとんど明かりが入らないようになっており、ここで患者さんが季節関係なく入れられていたとは信じられませんでした。

食事も十分とることができず自由が全くない恐ろしい部屋でした。ハンセン病患者さんは長い間、実名を名のすることも、子孫を残すことも、親や兄弟と一緒に暮らすこともできない生活を強いられてきました。私だったら耐えることができるのだろうかなど、いろいろなことを考えさせられた施設見学でした。

語り部の方より体験談をお話ししていただき、ハンセン病の歴史や医療・看護の理解をさらに深めることができました。見学後はクルーズクルーズで懇親会を行い、とても盛り上がり楽しかったです。皆、時間通りに行動でき団体行動を通して一人一人の協調性を高めることができたのではないかと思います。

旅行を通し皆の良いところを再発見できうれしかったです。



期 日：平成 24 年 5 月 27 日(日)
場 所：湯の浜カントリークラブ

第 8 回鶴岡地区医師会親睦ゴルフコンペに参加して

小野寺医院
小野寺 俊 直

燃え立つような新緑の美しい
2012年 5 月 27 日、日曜日。最近、経験したことが無い程の快晴に恵まれ、心地よい西風の吹く中、第 8 回鶴岡地区医師会親睦ゴルフコンペが湯の浜カントリークラブで行われた。

4 月 20 日に中目千之先生に代わって新しく医師会長に就任された三原一郎先生による開会宣



言と若々しい幹事役の福原晶子先生のコンペに関する説明の後、8 時 04 分、総勢 18 人が参加するプレーが開始された。優勝者以下の順位はダブルペリア方式で決められ、優勝者は中村友樹氏だった。又、栄あるベストグロス賞はアウト 39、イン 41 でまわられた五十嵐敬郎先生で、BB賞はアウト 71、イン 70 の難波真紀氏だった。

本来、この文章は優勝者が書くべきなのだが、中村氏が医師会員でなかったので準優勝となった私に御役目が回って来てしまったのである。この案の発案者は伊藤末志先生だったが、私の抗議もむなしく、締めは鈴木伸男先生の一声で私が書くことになってしまった。

私は第 1 組でスタートし、同伴者は三原一郎

先生、三浦二三夫先生、中村秀明先生だった。数日前から降雨量が少なかった上、土曜日から快晴続きだったので、グリーンは堅く私のボギーオンねらいのアプローチショットはピンをはるかにオーバーしてしまうありさま。

それと分かっているにもかかわらずロブショットに切り替える勇気もなく、加えて 3 パット、4 パットも数多く出る始末ではスコアがまとまるはずもなくアウト 50、イン 48 という当然の結果に終わってしまった。ゴルフは個人のスポーツなのだから、同伴者のプレーに言及するつもりはないが、唯、中村先生のパワーには今更ながら羨ましくも有り感心もした。

いつか誰かに聞いたことだが、ダブルペリアで

競技方法：ダブルペリア 打数制限：ダブルパー HDCP上 男：36.0 女：36.0 HDCP下 男：0.0 女：0.0

順位	競技者名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優 勝	中村 友樹	40	42	82	8.4	73.6
準優勝	小野寺 俊直	50	48	98	22.8	75.2
3 位	五十嵐 敬郎	39	41	80	4.8	75.2

多いハンディーキャップをもらおうと思ったら、アウトとインのショートホールとロングホールを各 1 つずつ選び出し、そのホールを大叩きするのだそうだ。大叩きしたホールが隠しホールになるかどうかは賭けである。ミドルホールのどこかも賭けて大叩きするといいい結果になることがあるのだそうだが、賭けがあたればの話でそんなことがうまくいくとは思えない。

ゴルフは初めに付き合った人との出会いが大切だという話を聞いたことがある。今、74 歳になって白内障の為、明るい場所ではボールの行方もわからなくなってしまった私だが、それで

も黒いサングラスを掛けてまでゴルフに熱中するのは、一打といえども負けたくない長年のライバルがいるからである。残念ながら前立腺の病の為に抗男性ホルモン剤を服用している為、トレーニングをしてもなかなか筋力がついてこないで数年前よりドライバーが 50 ヤードも飛ばなくなってしまった。いまやボギーで終われば上々というゴルフなのだが、ボギーオン、ワンパットというあらたな楽しみも味わえるようになったし、可能なかぎりゴルフを続けていきたいものだと思っている。



オーストラリア（グレートバリアリーフ、GBR）ケアンズ旅行記

中村内科胃腸科医院 中村 秀幸

オーストラリア大陸の北東岸に連なる巨大なサンゴ礁、グレートバリアリーフ。いつかは訪れてみたかった憧れの地。スキューバを始めると意外に今まで遠い存在だった海外が身近な存在になってきます。ふとしたきっかけで酒田の Kさんと私たち夫婦 3人でツアーに行くことになり LCC ジェットスター利用のビジネス（スター）クラスで 8 か月前にネットで格安決済（そのためほとんどキャンセルが効かないリスクでリッチなツアー）をしました。ところが 3 月の大震災、迷いましたが払い戻しも効かず決行としました。そうでなければ岩手にいる息子たちに申し訳なくて出かけられませんでした。Kさんは英会話も堪能でケアンズ旅行の経験もあり私たちはただついていだけの安心ツアーです。毎日ダイビングではもったいないので前半 2 日間はケアンズ観光、後半がメインの 3 泊 4 日のダイビングボートで GBR を潜る計画です。

成田から 7 時間半ほどでケアンズ国際空港に到着、時差は +1 時間、で午前 5 時。降りたつと気温は 20℃程、からりとした風が気持ちよい。清潔で感じのよい空港、入国は（最悪のグアム国際空港とは好対照で）スマート、麻薬捜査犬（ビーグル）ににおいをかがれた程度で審査官も礼儀正しく好感をもちました。



宿泊予定の港に面したシャングリラホテルまで空港から個人タクシー 20 分です。グラサン

SP風のナイスガイで、荷物や 20kg を優に超すダイビング機材も手際よく積み込み、さっそうと早朝のアーリーチェックイン。

コンシェルジュが若くて美人、さっそくケアンズ観光の相談です。キュランダ高原鉄道 (KRS) のゴールドクラスでのツアーに決まり。客車はヴィクトリア朝の落ち着いた雰囲気と深みのあるヘリテージグリーンと真鍮のプレートが素敵でした。眼前に出現する壮大な瀑布、手つかずの原始林にそびえたつ巨大な高原ゴンドラを眺めつつワインやデザート、スコッチなどをいただく。



1 時間 20 分ほどでキュランダに到着。その後町を散策、カンガルーハット（その名も「レッドロックハット」）をゲット、初めて見る放し飼いにされているカンガルー、コアラ、ワラビーや網の中のクロコダイルを観賞しました。



帰りはゴンドラで空中散歩、あっという間にケアンズです。初日ディナーはムール貝やあさり、アバロンなどシーフードがメインですが、カンガルー、エミューとクロコダイル三種の盛り合わせには唾然としました。いずれも単独では淡白なものでディップを付けてはおぼりました。乾杯は地ビール「フォエックス」で白ワインはルーウィンエステート（ビクトリア州）のアートシリーズ、2006年ソーヴィニヨンブラン。夕日の落ちかかったハーバーで心地よいそよ風のもとで地元のワインはやはり格別です。

翌日はグリーン島とその途中のポンツーン（浮き桟橋）ツアーです。大きな純白の双頭クルーザーで約1時間の船旅です。ダイビング可とあったので一応器材を持って参加しましたが砂地の浅い場所だけに視界不良、ニゴニゴでした。白い船体とまっ青な海、南太平洋の大海原で南半球の日差しを浴びて気分は最高でした。

2日目の夜は歩いて10分ほどメインストリートに面した「カニーズ」、有名な地元シーフードレストランでお目当てはマッドクラブです。店長から共食いをすること、泥抜きをしっかりとしないと臭い、足が速いことを教わりました。気になっていたセミエビ（バグ）付きのパスタも堪能できました。



次の日はタカダイブ企画のGBRダイビングクルーズ、集合は午後5時、午前中と昼は近くのエスプラネード沿いの「ラグーンプール」でのんびりと時間を過ごしました。市内のショッピングモールでは入口に震災チャリティーの案内を見て感動し胸が痛みました。4時過ぎにショップに送迎車で向かい、必要書類の記入とオリエンテーションを受けその後港に移動で

す。今回のゲストは地元オーストラリア、アメリカ、スウェーデン、韓国と私たちオールジャパン3人の総勢10人。クルーはスナイパー（キャプテン）、エンジニア、インストラクター4人、シェフ、ビデオ担当など総勢10人。

ボートは3デッキ、私たち2人の部屋は最上階3階の最前（操舵室の後方）、ミドルデッキには広いフロアあり食事やミーティングを行います。一人の日本人ガイド（ダイバー）がいましたが日本のスタイルと異なりビギナー以外はガイドしません。



夕方5時ケアンズ港を出航、シャングリラホテルを左舷に北を目指します。一夜で北部のリザード島付近まで250kmほど北上です。季節ががらりと変わり初秋から真夏に逆戻りといった感じでした。

距離にして15-20kmくらいでしょうか。左舷に大陸の輪郭、右舷に外海とリーフの境界を示す帯状の白い波、この波帯が見渡す限りの水平線に消えるようにえんえんと続いている。これが肉眼で見た初GBRです。

その日の海況を勘案しポイント決定、キャビン内に1日のスケジュールがアナウンスされます。初日の1本目は「コッドホール」ポテトコッドポイントで、カスリハタの獲付けショー。このツアーの最大の呼び物です。（でも世界遺産、自然保護なのに餌付けていいの？）1メートルを超える巨大ハタ、その周囲をうろつくロウニンアジ、バラフエダイの群れ。全員がサークルになって餌やりのアンディがそれぞれの目の前で餌をやります。リーフ内の透明度は想像していたよりよくなく砂地もあって10-15m程度でした。



4本目はナイトダイビング、いままでの経験したナイトはビーチだけなのに、暗闇に3人だけで、カレントあり深くて怖かったです。正直Kさんのナビゲーションスキルがなければとても楽しめませんでした。

翌日の1本目は「スティーブズボミー」、ここで私たちは記念の300本目ダイブとなりました。このポイントを発見しこよなく愛したスティーブさんゆかりの場所、一昔前の器材の時にこのポイントを見つけ愛していた先人に尊敬と憧れとともに同じ風景を見ているこの不思議な感覚にしびれました。根の基部に記念プレートが置いてあります。

別のポイントでは、お目当てのオーストラリア地域限定種の「スパインチークアネモネフィッシュ」や「バリアリーフアネモネフィッシュ」「レインフォーズバタフライフィッシュ」などをカメラに収めその可愛いしぐさに見とれました。



アテンダントのクールなスーさんが私たちに声かけをしてくださりこのポイントをガイドし

ていただきました。私たち3人のスキルを褒めてくださりとても光栄なことでした。英会話が苦手でも海の中でのほうがハンドシグナルやアイコンタクトでコミュニケーションとれる不思議な感覚、ダイビングの国境を越えた世界って素晴らしい。

最終日にデッキでゲストのみなさんで集合写真をとりました。



下船後もう一泊するために再びシャングリラホテルに、早速器材を取り出し乾燥モードにし昼はホテルに付属のイタリアンで朝採りの新鮮なムール貝、パスタに白ワインを合わせて。陽気なイタリア系フランス人のシェフと会話に花が咲きました。午後はプールでのんびりココヤシが風にそよぐベッドでのんびり本読みです。あー極楽、極楽。

帰りは昼12時ジェットスター便で成田へ、夜の8時に到着です。夢の様なあっという間の6日間でした。



YBCラジオ番組「ドクターアドバイスできょうも元気」の放送について

月曜日から金曜日までYBCラジオの健康情報番組「ドクターアドバイスできょうも元気」を放送中です。

当地区の担当は下記のとおりです。ぜひご聴取ください。

【放送時間：月曜日から金曜日 6時30分～6時45分、12時40分～12時55分】

放送日	テーマ	出演者	所属医療機関名
7月16日～20日	発達障害について	神田 秀人 先生	県立鶴岡病院
7月23日～27日	朝だ！ 元気だ！ 脈管だ！！	阿部 寛政 先生	満天クリニック
7月30日～8月3日	COPD（慢性閉塞性肺疾患）について	上野 寿樹 先生	介護老人保健施設 みずばしょう
8月6日～10日	形成外科での日常診療について	工藤 勝秀 先生	荘内病院形成外科
8月13日～17日	卵巣機能欠落症候群；女性更年期障害と骨粗しょう症について	高柳 健史 先生	荘内病院産婦人科
8月20日～24日	超高齢社会とロコモ（運動器症候群）について	上野 欣一 先生	上野整形外科

医師会 ニューフェイス

①氏名 ②所属 ③趣味・特技 ④ひとこと



- ① いからし ゆかり 五十嵐 由香里
 ② 在宅サービスセンター訪問看護ステーション
ハローナース 看護師
 ③ 旅行、フラワーアレンジメント
 ④ 分からないことばかりですが、
よろしくお願ひします。



在宅訪問歯科診療相談窓口を「ほたる」に設置しました

(社) 鶴岡地区医師会 会長 三原 一郎
在宅医療連携拠点事業室 室長 中村 秀幸

超高齢社会が進行する我が国では、在宅医療・ケアの充実が久しく叫ばれています。しかし、病院からは、誤嚥性肺炎で入退院を繰り返す高齢リピーター患者がいつに減少しないという切実な声も届きます。安心・安全な在宅療養を送るためには、栄養管理や摂食・嚥下リハビリテーションが重要な課題になってきています。

一方で、豊かな在宅療養のためには、食べる、話すという生活の基本となる機能を維持することがきわめて重要です。寝たきりにならないために運動が必要なように、食べる、話すという機能を維持するためにはそれなりの介入・指導が必要です。そこに、歯科医師の役割が求められています。

われわれは、在宅医療における歯科の関わりについて、在宅医療連携拠点事業室「ほたる」の場を借りて、歯科医師会との話し合いを続けてきました。歯科医師会にも、超高齢社会が進むなかで、歯科医はもっと在宅医療に取り組むべきとの認識があり、積極的に在宅歯科診療に関わりたいという思いがあることも分かりました。

そこで、先にお知らせしましたとおり、在宅訪問歯科診療に関する相談窓口を「ほたる」に設置することになりました。運用を話し合うなかで、歯科への依頼はかかりつけ医が責任をもって行うべきとの結論に達し、別表のようなフロー図を考えてみました。要点は、患者にかかりつけの歯科医師がいれば直接依頼する。いない場合は「ほたる」に電話あるいは申込書を添えて依頼するという単純なものです。申込み後は、歯科医師会で担当歯科医を決めます。担当歯科医師から情報提供依頼書が来たら、かかりつけ医が診療情報提供書とその歯科医師へ送ります。歯科診療終了後には、終了通知が送られてくるようになっています。気づきは、患者家族やヘルパー、訪問看護師、ケアマネジャーなどが多いかもしれません。相談がきたときは積極的な対応をお願いしたいと思います。Net4U導入医療機関においては、Net4Uを利用することでよりスムーズに運用できると思われれますが、まずはこのスタイルで始めてみたいと思います。

運用を開始したらそれを評価し、修正～改善していくというプロセスが重要です。今回の運用も、6ヶ月程度を目処に運用状況を評価する予定であり、思うように進まないのであれば、運用方法を見直したいと考えています。

より良い在宅療養を支援する取り組みのひとつです。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



参考：歯科医への【診療情報提供書】作成時に考慮してほしいこと（お分かりになる範囲で、以下の情報を盛り込むようご留意ください）

- ① 歯科医に希望する治療・処置・指導
- ② 疾患名……歯科処置の際に注意を要する疾患とその病状
例：高血圧症、心不全、肝硬変、腎不全、糖尿病、悪性腫瘍 等
- ③ 病状 認知度……診療に対する協力度合い 等

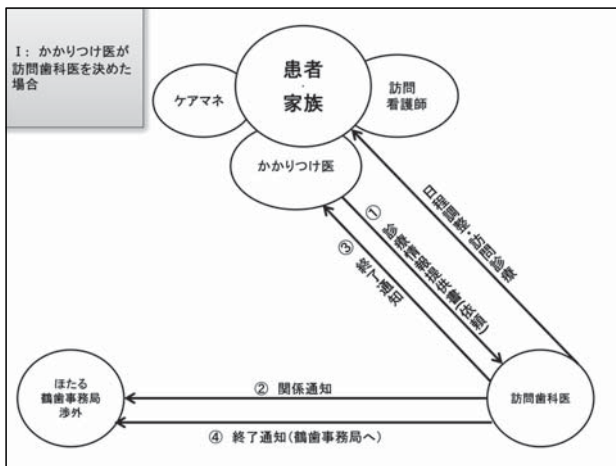
④ 観血処置に際してのリスク

止血困難（血小板減少、凝固機能低下……PT - INR：プロトロンビン標準化比>1.5）
感染の危険……糖尿病（HbA1C>8）白血球減少（<2,000）HBV・HCV感染の有無

⑤ 常用薬に伴うリスク

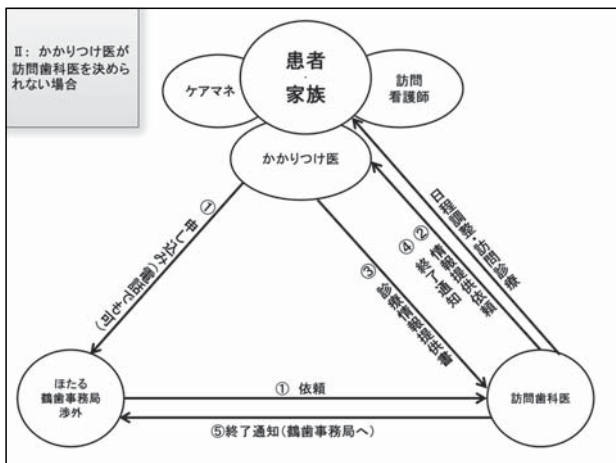
降圧薬……Ca拮抗薬使用の有無 等
抗血栓薬（抗凝固薬、抗血小板薬）使用の有無
骨粗鬆症に対するビスフォスフォネート系製剤使用の有無
顎骨壊死のリスク（静注 6～12ヶ月、経口 3年以上）

⑥ 医師の意見



《かかりつけ歯科医がいる場合》

訪問歯科医に診療情報提供書を送付し、歯科診療を依頼して下さい。
歯科診療終了後、訪問歯科医から終了通知が届きます。



《かかりつけ歯科医がない場合》

別紙の申込書を記入し、FAXまたは集配にて「ほたる」に申し込んで下さい。
(電話でも可)
決定された訪問歯科医から、②診療情報提供依頼がきますので、③診療情報提供書を作成し、訪問歯科医へ送って下さい。
④歯科診療終了後、訪問歯科医から終了通知が届きます。

平成 年 月 日

訪問歯科診療申込書

鶴岡地区歯科医師会 宛

申込者(利用者との関係:)

※申込窓口: 鶴岡地区医師会 在宅医療連携拠点事業室ほたる
住所 連絡先
電話: 0235-29-3021 氏名
FAX: 0235-29-3022

次のように訪問歯科診療を申込みます。

フリガナ	生年月日	性別
利用者氏名	明・大・昭 年 月 日生 () 歳	男・女
住 所		
電話番号 ()	駐車スペース <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
希望する治療 <small>□にチェックを入れて下さい</small>	歯 …□歯が痛い □歯が動く □歯が腫れている 入れ歯…□痛みがある □壊れた □作ってほしい □その他 ()	
通院困難な理由 (寝たきり、認知症等)		
その他		
介護認定の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> その他 () 要介護 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 5	
主介護者の氏名	(利用者との関係)	
かかりつけ医師	病院(担当医)・医院名	
かかりつけ歯科医	歯科医院名	
指定居宅介護支援事業者の名称・電話番号 担当ケアマネージャー名 <small>(利用がある場合に記入)</small>	電話番号	

※ 申込書の記載が困難な場合は、お電話での申し込みも可能です。
その場合は確認のご連絡を事務担当者からご本人宅にさせていただきます。

お問合せ先
在宅医療連携拠点事業室「ほたる」
TEL: 29-3021 FAX: 29-3022

表 紙

「 烏 城 」

佐 藤 洋 司

先日信州の旅に行ってきました。霧にむせぶ美ヶ原高原を観光して夕方になってやっと松本市内の見物となり、信州随一の観光スポットのお城は数十年前に訪問していますので久しぶりの対面となりました。

松本城は1504年（永正元年）に信濃守護家小笠原長棟により築城されており、その後しばしば改築されながら、現在は天守が国宝になっております。現存12天守の中で唯一の平城で、黒漆塗りの外観などからいわゆる烏城と呼ばれていますが正式名称ではありません。

さて全体を写そうと堀に近づくと錦鯉やドイツ鯉が寄ってくるため水面に波紋が出てしまい困りました。何とか写したのがこの写真です。

平成24年 5 月25日

編 集 後 記

伊藤茂彦新編集委員長以下、新編集委員でお届けする、最初の「めでいかすとる」となります。今までの良き伝統を踏襲し、また、更なる発展を遂げつつ、皆様のお手元に届けられるよう、一致団結して頑張りますので、よろしくお願い致します。

また、私事になりますが、このたび、鶴岡地区医師会副会長を務めさせていただくこととなりました。先日行なわれた決算総会においても、役員になってこの10年、眺めてきたはずの収支計算書ですが、いざ説明をすることになると、どのように読み解くかだけでも、大変でした。ですから、副会長としての仕事は、どんなことがこれから出来るのか、やっていかなければならないのか、まだまだ手探り状態です。是非、皆様から色々なご意見を伺ったり、また、ご指導賜りますよう、合わせてお願い申し上げます。

さて、今月号は盛り沢山の内容です。講演会関係の抄録が2編、行事が2編。また、満を持しての、新シリーズ登場です。小野寺先生の小気味良い文章も、久しぶりに拝見し、親睦ゴルフコンペが、目の前で繰り広げられているような気がしました。今後も、是非ご寄稿いただき、編集内容に花を添えて頂きたいものです。

私が編集委員になって、11年目になります。その間、色々な連載がありましたが、現在でも続いている、「マイペット&マイホビー」「私のお勧めの店」「大切な本・思い出の曲」などは、執筆者の意外な素顔が現れ、大好きなシリーズなのですが、残念ながら、原稿を書いていたのが困難な状況です。そこで、新たなシリーズとして、「旅行記」シリーズを企画いたしました。第1回の執筆は、編集委員の中村秀幸先生です。旅行好きの先生方は多くいらっしゃると思います。なかなか出かけられない私たちのために、その思い出をおすそ分けしていただけるのを楽しみにしています。

(福原 晶子)

編集委員：伊藤 茂彦・福原 晶子・石原 良・中村 秀幸・斎藤 高志・今立 明宏

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

URL <http://www.tsuruoka-med.jp>